

日本ESD学会ニュースレター第3号

2018年12月1日

編集発行：日本ESD学会事務局

〒630-8528 奈良県奈良市高畑町 奈良教育大学次世代教員養成センター 中澤静男研究室

TEL/FAX:0742-27-9269 E-mail: jseud.office@gmail.com Website: <http://jseud.xsrv.jp/>

目次

私のESD(学会長)	1
日本ESD学会第1回大会報告	2
日本ESD学会2018年度総会	4
役員理事幹事(第二期)紹介	7
東北地方研究会報告	7
国際動向	8
大会・地方研究会開催案内	8
事務局からのお知らせ	9

私のESD

本学会第1回大会が8月18, 19日に奈良教育大学を会場に開催され、約250名の参加をいただきました。口頭発表、ポスター発表、ワークショップの他、企業からの展示もあり、充実した内容で好評のうちに幕を閉じることができました。初めての大会に向けて3月から手探りで準備を重ねてきた実行委員会の皆様と共催いただいた奈良教育大学に感謝いたします。この経験は実行委員会によって記録化されて第2回大会(仙台)に引き継がれます。研究発表の内容については、「実践と研究の有機的な連携という視点から見ると必ずしも十分とは言えない。」という評価もお聞きしましたが、今後、回を重ねる毎に大会の内容も充実していくものと期待されます。

全国レベルの大会だけでなく、地方における身近な研究会での忌憚のないディスカッションも実践者と研究者の連携を深めていく場として重要だと考えています。2017年度には、岡山と奈良で研究会を開催することができました。規模の大小を問わず、研究会、シンポジウム、研修会、勉強会等々様々な形態での会員の交流が全国各地で開催されることを期待いたします。行事・企画担当理事、事務局もできる限りのサポートをいたしますので、遠慮なくご相談ください。

第1回大会に合わせて、2018年度総会が開催され、多数の参加をいただきました。2017年4月29日の設立総会后に制定された各種規則をはじめ、重要な議題が承認されて、学会が本格的に活動を始めたという感想をもちました。

ところで、「ESDの実践を深めるために」というテーマで話をさせてもらう機会がありました。話のツボは、「SDとESDを自分の言葉で理解し、自分なりのESDをつくろう。」ということです。ESDの公式の日本語訳は「持続可能な開発のための教育」ですが、実感をもって心にストンと落ちるでしょうか。私の場合、SDについては、「将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たす。」というブルントラント委員会(1987)の表現が腑に落ちます。戦中戦後に文字通り辛苦をなめて育ててくれた両親の元での少年時代、躍進する経済と豊かになった文化の恩恵にあずかった青年期と子育て期。孫たちにも同じように豊かな経験をさせたいと考えたときに、「持続可能な社会」のイメージが具体化し、ESDが自分のものになりました。GAPから4年、SDGsを柱とする「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が国連総会で採択されてから3年が経過しました。ユネスコは2019年に終了するGAPの後継のプログラムを検討中です。このような世界の動きを見ながら、会員の皆様も「私のESD」をつくり、研究会での議論を通してESDの実践と研究をブラッシュアップできればと思います。

(会長 長友恒人)

日本ESD学会第1回大会 報告

2017年の学会設立後、初の全国規模の研究大会を、2018年8月18、19日に奈良教育大学にて開催したところ、全国から251名の参加(内会員185名、非会員66名)があった。55本の口頭発表、7本のポスター発表の他、2日目には6つのワークショップが開催され、熱心な議論が見られた。

(1) 自由研究発表

2日間の発表者の地域別の内訳をみると、関西地方25本、関東地方19本、九州地方7本、中国地方6本、東北地方3本、四国・北海道地方がそれぞれ1本であった。

また発表者の所属別にみると、大学等研究者が26本、幼稚園から高等学校までの教員が19本(内幼稚園が2本、小学校が7本、中学校が5本、高等学校が2本)企業・団体が14本、学生が7本であった。現職教員の発表は、特に総合的な学習の時間を活用したと思われる発表が多く、特定の教科に限定せずに教科横断的に取り組む実践も見られた。理科、社会科、英語科、特別活動など



自由研究発表(口頭発表)の様子

様々な教科・活動の中でESDが実践されている一方で、国語科や算数科といった教科でのESD実践は要旨集を見る限り見られなかった。また、研究者による発表は、社会科や総合的な学習の時間といった既存の教科の理論、またはへき地教育や世界遺産学習などのこれまでの教育分野とESDとの整合性を捉えようとするものや、ESDの課題、ESDで育むべき資質・能力などESDの研究の在り方や概念について捉えようとするものが多かった。企業や団体の発表は、地域を主体とした実践に即したものが多く、そのテーマは環境、食、防災、伝統文化と、まさに学際的で多岐にわたるものであった。

理論的研究にとどまらず、実践的研究を踏まえた上でESDの深化と促進をねらいとする本学会の趣旨に照らして見ても、学校現場での優れた実践が数多く発表されたことは意義深い。一方で、特に教育の実践発表は、「実践報告」の域に留まっているものも見られた。「実践報告」から「実践研究」へと、徐々に研究としての質が高まっていくことを期待したい。

(2) ワークショップ

ワークショップにおいても、大学研究者、現職教員、企業・団体、ユース等、多様なステークホルダーによる企画された。そのテーマも、新学習指導要領、地域性、現代的課題など様々な切り口によるワークショップが開催され、ESDの切り口の多様性が見える内容であった。

他の既存の学会ではとかくその分野、業種に関わる参加者のみによる場合が多い。しかし、ESDにおいては、その問題そのものが複雑に絡み合った複合的なものであり、単一の研究分野で収まらないという特徴がある。また、ワークショップでは一方向的な発表を聞くだけでなく参加者の積極的な参加によって作り上げられるものであり、自然と多様な見方から議論や交流が生まれることとなった。こうした異業種、異分野の主体が協働し合い、議論する場がESD実践の質を向上していくことにつながるのではないかと考えている。



ワークショップ「深い学びとESD」

当日開催されたワークショップの開催者とタイトルは以下のとおりである。

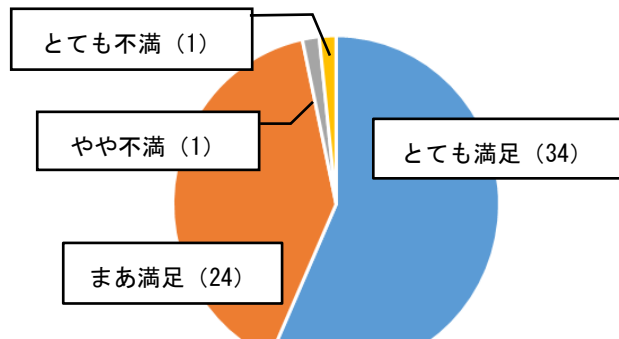
- ・ESDにもとづいたアクティブラーニング・PBLワークショップ（代表者：長岡素彦）
- ・ESD 気候変動教育ワークショップ（代表者：市瀬智紀）
- ・奈良で学ぼう ESD（代表者：中澤哲也）
- ・世界遺産を通じた世界の多様性理解（代表者：宮澤光）
- ・ユース世代と一緒にESD・SDGs 取り組もう！（代表者：青山真弓）
- ・深い学びと ESD（代表者：米田伸次）

(3) アンケートから

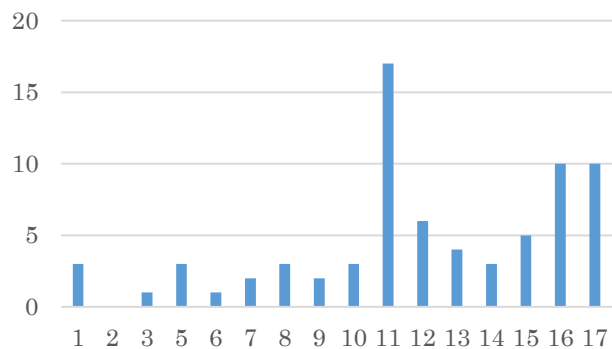
第1回大会参加者の現況を把握するためにアンケートを実施した（回答数60）。

総合満足度は、「とても満足」が34、「まあ満足」が24、「やや不満」「とても不満」が共に1と、概ね満足度の高い大会であったと言える。

また「専門・関心分野にもっとも近いSDGsのゴール」を問う質問項目に対しては、目標11「住み続けられる町づくり」が最も多く、特徴的な結果となった。続いて目標16「平和と公正をすべての人に」、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」が多かった。国内でどのような実践が多くなされているのかを分析していくことで、我が国におけるESDの実際や今後に向けた課題を明らかにすることができると考えられる。今後の研究の成果を待ちたい。



問10 総合満足度



問6 あなたの専門・関心分野に最も近いものを1つ、SDGsから（目標4以外）

(4) まとめにかえて

実践と研究の往還による ESD の深化を目指す上で、多様なステークホルダーによる報告があったことは、参加者それぞれの実践の幅や研究の視野を広げるだけでなく、ステークホルダー間もしくは地域間の連携や協働を促進することにつながると考える。研究発表の各会場は、非常に和やかな雰囲気を保ちつつ批判的な質問が多く見られた。これは本学会の特色としてこれからも大切にすべき点だと考える。2日間を通して、つながりを重視する ESDらしく、全国から多くの参加者が集まり、活発な意見交換をしていただいた。第1回という前例のない大会の開催にも関わらず実りある研究の場をつくることができたのは、参加者の皆様はもちろんのこと、開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆様、細やかな気配りと機転を利かせていただいた奈良教育大学の宮下実行委員長をはじめとする運営スタッフ・学生ボランティアの皆様のご協力あってのことと考えている。この場を借りて厚く御礼申しあげたい。今後も、運営スタッフ、参加者、そして事務局と三者が互いに協力し合って作り上げる大会運営を継続させ、本学会の“文化”となっていくことを期待したい。



懇親会の様子

(文責：事務局長 河野晋也)

日本 ESD 学会 2018 年度総会

2018年8月19日に奈良教育大学を会場に開催された日本 ESD 学会第1回大会時の総会において、2017年度の事業報告・決算報告ならびに2018年度の事業計画・予算計画が審議され、承認されましたので報告します。

1. 各担当からの報告

(1) 総務担当

①会員総数(2018年8月5日現在) 正会員 362、学生会員 17、団体会員 計 385

②2017年度分会費納入状況(2018年3月31日現在)

正会員 281/323(納入率 87%)、学生会員 10/11、団体会員 4/4

③審議・承認事項

会則の一部改正、会員に関する細則、日本 ESD 学会選挙規定を審議し承認された。

④報告事項

日本 ESD 学会誌編集委員会規程、日本 ESD 学会誌『ESD 研究』編集・投稿規程、同執筆要領、同査読規程、共催等および後援名義使用の許可手続に関する内規、日本 ESD 学会ウェブサイトにおける「イベント」掲載の取扱に関する内規を制定した。

⑤評議員会の開催

第1回評議員会 2017年4月29日(秋葉原コンベンションホール)

第2回評議員会 2018年12月17日(江東区立八名川小学校)

その他、メール審議を13回行った。

⑥理事会

主として後援名義使用許可についてメール会議を行った。

(2) 渉外・広報担当

①学会ウェブサイトを持ち上げ、運用している。

②3つのイベントに対して後援名義の使用を許可した

2017年8月23日 ユネスコスクール・ESD研修会 in 大牟田

2017年10月30日 広島大学ESDコンソーシアム特別講演会

2018年1月27日 八名川小学校第6回ユネスコスクールESDパワーアップ交流会

③広報活動

第9回ユネスコスクール全国大会（2018年12月2日）ブース展示

ESD推進ネットワーク全国フォーラム2017（2017年12月24・25日）ポスター展示

学会リーフレットの作成

(3) 行事・企画担当

①学会主催の企画

2018年3月3日 学会設立記念特別企画シンポジウム

「SDGsとESD」特別企画シンポジウム —ESDの実践と研究の有機的連携にむけて—」をテーマに、国際連合大学において国際連合大学サステナビリティ高等研究所との共催で開催した。

②地方研究大会の開催

2017年12月10日 日本ESD学会中国地方研究大会（岡山大学）

2018年2月12日 日本ESD学会第1回近畿地方研究会（奈良教育大学）

(4) 編集担当

①学会誌『ESD研究』創刊号の発行

編集規定及び関連規定の策定、編集委員会の立ち上げの後、論文を公募する時間的余裕がなかったので、創刊号の内容は特別寄稿・報告・資料解説・文献紹介とした。基本は電子出版とし、希望者には冊子体を実費で頒布。

(5) 会計担当

①予算・決算

会員数の予測が困難であったので、予算を立てることができず、節約型で運用した。

(6) 事務局

①事務局の体制と運営

財政的な理由から、専任または非常勤の事務局職員を置くことができないので、会員のボランティアによって運営した。事務局長の他に、2018年3月までは3人体制、2018年4月からは5人体制。

②役員選挙の実施

選挙規定を制定しそれに基づき選挙管理委員会を設置して役員選挙を実施した。

選出された評議員によって理事を互選した。新役員は別紙（2018年度事業計画の末尾に記載）のとおりである。

③ニュースレターの発行

ニュースレター創刊号および第2号を電子版で発行した。

2. 2017 年度会計報告（省略）

3. 2018 年度事業計画

（1）総務担当

- ①会員が少ない地方における会員増を図る。
- ②会計関連規則（または、会計取扱内規）、倫理規定等必要な規則の整備を進める。

（2）渉外・広報担当

- ①引き続き、共催・後援を積極的に進める。
- ②昨年度に引き続き、ユネスコスクール全国大会や ESD 推進ネットワーク全国フォーラムでの展示など広報に努める。共催あるいは後援するイベント等において広報を行う。
- ③昨年度は事務局が担当したニュースレターの発行を今年度から渉外・広報担当が中心になって行う。今年度は第 3 号、第 4 号を発行する。

* 以上の業務を円滑に進めるために、幹事を置く。

（3）行事・企画担当

学会主催の企画（2017 年 5 月～2018 年 3 月分）

第 1 回大会（2018 年 8 月 18-19 日、奈良教育大学）を実施する。

地方の会員と協力して地方における研究会や研修会を企画・実施する。特に、会員が少ない地方において規模の大小を問わず、研究会・研修会等を企画する。

* 以上の業務を円滑に進めるために、幹事を置く。

（4）編集担当

学会誌『ESD 研究』第 2 号の発行

投稿論文を中心とする『ESD 研究』第 2 号を、9 月末登録、11 月末原稿提出（予定）で発行する。

* 編集業務を円滑に進めるために、編集幹事を置く。

（5）会計

①2018 年度予算案について

②会計業務の厳格化

会計関連規則（または、会計取扱内規）を定めて会計業務を行う。

③会費納入

会員増による財政の安定化を図る。また、会費納入率 100% を目標とする。

（6）事務局

①事務局会議

事務局会議の定例化を継続するとともに、必要に応じて総務担当理事、会計担当理事が出席する拡大事務局会議をもつ。

②各担当理事のサポート

各理事の業務を円滑に進めるため、必要に応じて理事及び幹事を事務局がサポートする。

4. 2018 年度日本 ESD 学会予算案（省略）

5. 第 2 期役員（任期は 2018 年度総会～2020 年度総会）（敬称略）については次の通り。

第2期役員（任期は2018年度総会～2020年度総会）（敬称略）

会長 長友恒人

副会長 小澤紀美子、手島利夫

事務局長 河野晋也

評議員 浅井孝司、阿部 治、市瀬智紀、岩本 渉、及川幸彦、大西浩明、加藤久雄、川田 力、
木曾 功、河野晋也、小金澤孝昭、小澤紀美子、佐藤真久、重 政子、鈴木克徳、
棚橋 乾、田渕五十生、手島利夫、中澤静男、永田佳之、西口美佐子、福井昌平、
見上一幸、三隅佳子*、米田伸次

会計監査 安田昌則、柴尾智子

理事 岩本 渉（総務）、市瀬智紀（渉外・広報）、見上一幸（行事・企画）、鈴木克徳（編集）
西口美佐子（会計）

◎ 編集担当幹事 湯本浩之

◎ 広報担当幹事 河本大地

訃報

評議員の三隅佳子様は去る9月7日にお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

（文責：事務局 中澤静男）

東北地方研究会報告

東北地方を中心として ESD/SDGs を実現するための地域づくりを行うことカリキュラム開発をテーマとして、2018年8月3日（金）宮城教育大学 未来の教室で日本 ESD 学会東北地方研究会が開催された。学校教員・研究者、ユネスコ協会など東北地方の内外から36名が参加した。

第I部「ESD/SDGsを実現する地域づくりについて」では、福島県只見町の過疎が進む地域で地域の人材を活かした ESD の報告と、世界農業遺産の取組みを主導する大崎市、市民団体による学校の児童生徒を巻き込んだ。仙台地域の取組の紹介があった。

第II部の学校実践検討会では、気仙沼市の体系化されたホールエリアでの取組、宮教大附属小学校の ESD に魅力を感じた複数の教員が中心になって推進している取組、研究レベルで農業を ESD と結びつけた事例とそれに関連する古川学園の高校生の取組み報告が行われた。

第III部 特別講演会 “Reflection on Ecological Civilization and ESD—UNESCO-ESD for SDGs. On implication of new conclusions of ESD for SDGs on Sino-Japan cooperation in ESD” では、中国持続発展教育活動委員会のエグゼクティブディレクター Dr. Shi Gen Dong(史根東博士)による特別講演があった。最近の GAP 後継プログラムを巡る国際情勢、中国における20年にわたる ESD の取組み、学校実践の実際についてお話を伺った。特に、中国が工業化社会の次に目指すべき社会として提案している「生態文明(Ecological Civilization)」の概念が注目を集めた。

続いて8月4日は、巡検として、いぐねの里「長喜城」、せんだいメモリアル交流館、荒浜小学校、海浜冒険広場など、2011年3月11日の被災地とそれ以前から続く地域の人々の生活の知恵について見聞を深めた。（文責：市瀬智紀）



東北地方研究会特別講演会

懇談会

国際動向：ESDの将来的展開に関するユネスコ・ポジションペーパーについて

2014年より国連ESDの10年以降の世界的なESDの推進については、ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）により進められてきましたが、2019年のGAPの終了を見据えた議論が進んでいます。本年7月にバンコクで開かれたテクニカル・コンサルテーション会合を踏まえ「ESDの将来的な展開に関するユネスコ・ポジションペーパー」（改訂案）が公表されました。このポジションペーパーでは「Global Action Program 2030 on Education for Sustainable Development: Toward Achieving the SDGs（GAP2030）」というフレームワークを提唱し、SDGsに貢献するためのグローバルアクションプログラムの2030年までの展開を提案しています。

11月上旬までに世界から集められた意見を踏まえて、最終案が作成され、2019年にユネスコ総会、国連総会に提出され、承認される予定です。

大会・地方研究会開催案内

日本ESD学会は原則として1年に1回の大会（全国規模の研究大会）を開催することとしています。遠方から宿泊を伴う大会に参加することが困難な会員も少なくありません。そのことを考慮して、全国規模の大会とは別に、地域的な研究会を各地で開催いたしております。

（1）地方研究会

◆2018年度日本ESD学会中国地方研究大会

日時：2019年1月27日（日）10時～16時30分（予定）

場所：広島大学東千田キャンパス 東千田総合校舎S棟

（広島市中区東千田町1-1-89）

交通アクセスは以下のHPをご参照下さい <https://www.hiroshima-u.ac.jp/access/sendai>

プログラム：一般研究発表・ラウンドテーブル、詳細は12月25日ごろにご案内いたします。

一般研究発表は一本あたり20分程度を予定しております。

連絡先：岡山大学大学院教育学研究科ESD協働推進室

e-mail esdpc@cc.okayama-u.ac.jp 電話 086-251-7723 または-7617

（お問い合わせはなるべく電子メールでお願いいたします。）

◆日本ESD学会 関東地区研修・交流会

日時：2019年2月2日（土）17時～19時

場所：聖心女子大学グローバルプラザ（4号館） 2階のアクティビティ・ルーム
（東京都渋谷区広尾4丁目2-24）

連絡先：手島利夫 contact@esdtejima.com

◆第2回近畿地方研究会

日時：2019年2月23日（土）

場所：京都外国語大学（京都府京都市右京区西院笠目町6）

（2）日本ESD学会第2回大会

次回の全国大会は、8月19日（月）20日（火）に仙台の宮城教育大学にて開催の予定です。発表申込など詳細については、2019年の3月下旬までにお知らせいたします。

事務局からのお知らせ

（1）2018年度学会費を未納の方は、日本ESD学会ゆうちょ銀行振替口座に振り込んでください。2019年8月の総会・研究大会に参加するには、7月末までに2019年度学会費を納入していただくことが必須です。なお、2年を超えて会費を滞納した会員は退会となることがありますので、ご注意ください。（会員に関する細則第6条）

正会員：5,000円、学生会員3,000円、団体会員20,000円

①郵便局・ゆうちょ銀行ATMからのお振り込み ※振込用紙を使用される場合

【口座記号・番号】 00960-5-0311266

【口座名称】 日本ESD学会（ニホンイーエスディーガッカイ）

②その他金融機関からのお振り込み

【銀行名】 ゆうちょ銀行

【店名】 099（読み ゼロキユウキユウ）

【店番】 099

【預金種目】 当座

【口座番号】 0311266

【口座名称】 日本ESD学会（ニホンイーエスディーガッカイ）

※このゆうちょ銀行口座は会費振り込み専用です。大会参加費等は、第3報でご確認ください。

（2）会員情報の変更など

住所、メールアドレス、所属など会員情報に変更がございましたら、日本ESD学会事務局までご連絡ください。

日本ESD学会事務局アドレス jsesd.office@gmail.com

（3）後援や広報に関して

ESDに関する研究会等の開催を予定されている方々、日本ESD学会の後援やウェブサイトでの広報を希望される場合は、日本ESD学会事務局までご連絡ください。

日本 ESD 学会事務局アドレス jsted.office@gmail.com

(4) 地方研究会の開催

2017 年度から 2018 年度前半にかけて、12 月に中国地方研究大会、2 月に近畿地方研究会、8 月に東北地方研究会が開催されました。特に、現職教員や各地で ESD に関わっておられる会員の方々の研究発表の機会や研修の機会として、地方研究会の開催を歓迎します。開催を計画されている方は、日本 ESD 学会事務局までご相談ください。

日本 ESD 学会事務局アドレス jsted.office@gmail.com

(5) 若手会員の活動

学会の若手会員から研究、研修、勉強、交流を目的に活動したいという案が会長宛てに届いております。具体案は有志が検討中、今後学会の活動として位置づけていく予定です。